

令和7年度

環境科学セミナー

無料

第一部 基調講演

「気候変動問題が与える 地域社会への影響」

朝の情報番組 THE TIME,(青森テレビ)
気象キャスター

気象予報士・防災士

増田 雅昭氏

Masaaki Masuda

1977年滋賀県甲賀市生まれ。TBSテレビ・ラジオ気象キャスター。
大学在学中に気象予報士を取得し、民放キー局の報道番組に学生予報士として出演。
気象キャスターに携わりながら、企業・自治体・個人などへの気象に関するアドバイザーを長
年担当。甲子園での夏の高校野球で大会本部気象担当を務めたこともある。より多くの人に、
天気の見え方や気象情報の上手な使い方を知ってほしいと、全国各地で講演や出前授業な
ども積極的に行っている。



第二部 成果報告

- 「環境中の放射性物質はどのように動くの?~再処理工場から排出される放射性物質の動きを探る~」
環境科学技術研究所 環境影響研究部 部長 植田 真司

- 「六ヶ所村周辺の海洋放射能」
日本海洋科学振興財団 むつ海洋研究所 海洋研究部 主任研究員 小藤 久毅

日時

令和7年

12月11日(木)

14時00分~16時30分 (開場13:30)

第1部 基調講演 (14:05~15:05)

第2部 成果報告 (15:15~16:25)

会場

アートホテル弘前シティ
3階 プレミアホール

青森県弘前市大町1-1-2 TEL 0172-37-0700

お申し込み方法

参加をご希望の方は、裏面のはがきに住所、氏名等を記入
して郵送またはFAXでお申し込みください。電子メール、
ホームページからのお申し込みも可能です。12月9日まで
にお申し込みください。(当日参加も可能です。)



お申し込み・お問い合わせ:公益財団法人 環境科学技術研究所 共創センター

TEL.0175-71-1240 FAX.0175-71-1270

〒039-3212 上北郡六ヶ所村尾駸家ノ前 1-7 [ホームページ](https://www.ies.or.jp/) <https://www.ies.or.jp/> [電子メール](mailto:kanken@ies.or.jp) kanken@ies.or.jp

主催: 青森県 (公財)環境科学技術研究所 (公財)日本海洋科学振興財団

FAX 送信の場合 0175-71-1270へ

・本はがきで収集した個人情報、本報告会の運営に関する当研究所からのご連絡やご案内にのみ利用いたします。

(キリトリ線)

郵便はがき

0393290



上北郡六ヶ所村
尾駸家ノ前一番七

差出有効期間
令和7年12月10日
(切手不要)

公益財団法人
環境科学技術研究所
共創センター 共創推進課 行

環境科学セミナー(弘前会場)

お名前	フリガナ	参加人数	人
ご住所	〒		
電話番号	()		

放射線に関する事など聞きたいことをお寄せください。



(糊にアヒキ)

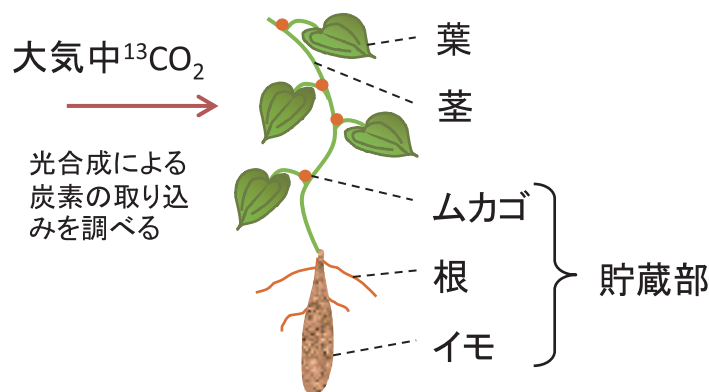
排出放射性物質影響調査(青森県委託事業)の紹介

ナガイモへの放射性炭素(^{14}C)の移行性と残留性を調べています

再処理施設の稼働に伴って大気中に放出される放射性の炭素 ^{14}C の一部は、二酸化炭素($^{14}\text{CO}_2$)として光合成を経て植物に取り込まれる可能性があります。当調査では、青森県の主要な農作物であるナガイモを対象として放射性炭素の移行性と残留性を調べています。

調査には、放射線を出さない炭素 ^{13}C を用いています。ポットで栽培した成長段階の異なるナガイモを特別にデザインされた植物栽培装置(写真)に設置し、炭素 13 を含む二酸化炭素($^{13}\text{CO}_2$)を送り込みます。その後、ナガイモの各部に含まれる炭素 13 を分析することで、大気中の二酸化炭素がナガイモの葉から取り込まれて収穫する部分(イモ)に移行する様子を明らかにすることができます。

調査の結果、ナガイモの成長の各段階で大気中から光合成で取り込まれる割合が明らかになるとともに、栽培期間後半に取り込まれた炭素が比較的イモに移行しやすいことなどが明らかになり、ナガイモ中の放射性炭素をより正確に評価できるようになりました。



ナガイモ各部の名称と葉からの二酸化炭素吸収



植物栽培装置による実験の様子

調査の内容や成果等はホームページ (<https://www.aomori-hb.jp/>) に掲載されています。